

コウノトリの誘致方法と保護

朱宝光¹・李景華²・王晓峰³・常雲紅⁴

1 黒竜江省洪河自然保護区, 2 黒竜江省三河林場

3 黒竜江省林業庁, 4 黒竜江省五九七場

訳 福井和二

コウノトリ (*Ciconia boyciana*) はコウノトリ目, コウノトリ科の大型涉禽で, 我が国の一級保護動物に指定され, 同時にレッドデータブックに収録されている。コウノトリの繁殖地域は, 中国東北部, 内蒙古自治区およびロシア極東地区に限られている。

1950年代から80年代に至る間の我が国の黒竜江省におけるコウノトリの生息はまだ多かったが, 近年, 年を追うごとに人口の増加や人間活動の拡大から, 松嫩平原¹ではほとんど繁殖個体を見ることができなくなり, 本区でもわずかな個体を偶然に見かける程度になった。

三江平原におけるコウノトリの主な分布域は洪河自然保護区, 三江自然保護区撈力河, 七星河等の地域の他, 興凱湖地区, 小興安嶺にも少数が分布している。

最近, われわれは洪河自然保護区において, 人工巣によるコウノトリの誘致に成功した。その以前には, わずか2, 3つがいが繁殖する程度であったが, 1993年から1999年までに人工巣により誘致繁殖したコウノトリは112つがいで, 巣立った雛455羽と非常によい結果を得た(表1)。

コウノトリは生活する人間が少なく, 人間の生活行動圏から遠く離れた大きな高木の上に営巣するので, 1993年, われわれは14個の人工巣を作り, それぞれ異なった環境に設置したところ, 6つがいが利用した。利用率は43%。観察により, 沼沢に近い疎林中に孤立した大きな樹に取りつけた人工巣が誘致の成功率が高く, 樹種はデロ, シラカバ等が誘致成績が良かった。

表1 1993~1999年人工巣の誘致成績

年度	巣の数	誘致数/番	巣立ち雛数/羽
1993	14	6	24
1994	12	14	64
1995	10	14	64
1996	10	20	80
1997	10	20	76
1998	10	20	74
1999	10	18	73
合計	76	112	45

人工巣設置については生息環境の選択が重要である。設置場所は, 自然営巣に近い環境を選択すべきで, たとえば人の生活圏に近かったり, 植被が単相, 採食場所である湖沼の生物層が乏しかったりすると成功しない。

採食地の環境要因の良否はコウノトリ保護の上で影響が大きく, 保護区内の生物種の量など(餌動物の量, 植被の高度, 植被の類型, 湖沼の水深等)人工巣設置について考慮しなければならない。

採食地の選択は複雑で, 地域によっては環境要因が不安定で, 前年からの降水量は直接関連し, したがって, コウノトリの採食地も変化する。今までの観察によれば, コウノトリは採食地として, 浮葉性, 沈水生などの水生植物が多く, 水深が15~25cmほどの浅い湖沼を多く利用している。洪河自然保護区にはこのような湖沼が多く存在し, 餌動物も豊富で, 草丈20~30cmなどと, コウノトリの生息環境として適している。

これら地域のすべての環境条件を考えて, 直系20cm以上の樹を, 誘致する営巣樹として選定, 地上から4m以上のところで, その樹冠を切り落とし, 鉄材で直系1.20~1.50mの籠を作り,

針金で、切り落とした樹冠部へ取り付け、樹の小枝や、枯れ草で巣材を補強した。

三脚台の人工巣へのコウノトリ誘致も良い結果を得た。1996年、われわれは保護区の核心区にある水深の深い湖沼中に、三脚台6個を設置し、1997年そのうちの1個にコウノトリが営巣し、1999年現在までに12羽の雛を育てた。

湿地中の三脚台人工巣は、林縁部や樹林中の人工巣に比べて、構造が露出しているため、人の干渉が無いように考慮しなければならない。もし、誘致巣設置区域にしばしば人の活動、干渉があるならば、誘致成功は容易ではない。たとえ春になって、コウノトリが営巣を始めたとしても人の活動、干渉があれば、抱卵、育雛が進んでいたとしても、巣を放棄することがある。

湿地中の三脚人工巣の設置には、以下の要件に注意しなければならない。

季節の選択；湿地の誘致人工巣の設置は早春の早い時期までにしなければならない。

生息環境選択；生息環境の選択は植被状態、鬱閉度、人の活動、干渉の程度、湖沼の水深10~30cm、水中の植物などを考慮する。

樹種の選択；浸水に耐えるもの、腐食している樹は良くない。

現在、三江平原のコウノトリは個体数が減少し、彼らの繁殖、繁栄に適当な地域は人々の開発に利用され、残されたのは保護区の限られた地域になってしまった。保護区においてコウノトリの繁殖誘致をするのは、さしあたり三江平原のコウノトリの個体数を増やすためには最良の方法と思われる。同時に増加して繁殖に参加する個体が増え、営巣場所不足から、厳しい営巣場所の争いのあげく、この地区を離れていくのを防ぐことになる。人工巣設置に当たっては、設置場所が多すぎず、密度が過大にならず、すべての区域に、環境要因を有機的に結合した科学的な人工巣誘致計画を進めることが必要である。

訳注

1 松嫩平原；黒竜江省、吉林省の西部、嫩江と松花江の合流点を中心とした平野地帯。